

がん社会 を診る

中川 恵一

トヨタ自動車のジュリー・ハンブ元常務役員が6月18日、麻薬取締法違反の容疑のため、滞在していた都内のホテルで逮捕され、同月30日付で辞任しました。

中身がネットレスと書かれた米国からの国際宅配便の小包から、医療用麻薬成分「オキシコドン」を含む錠剤57錠が見つかり、麻薬取締法違反の容疑が持たれましたが、東京地検は7月8日、ハンブ元役員を不起訴（起訴猶予）処分とし、釈放しました。

彼女のしたことは、処方箋がない医療用麻薬の不適切な輸入方法（密輸）で厳然とした違法行為です。ですが、今回の事件には、日米の痛みの治療に対する考え方の違いが背景にあるように思います。ハンブ元役員は「膝の痛みを和らげるため、父親が米国で処方された薬を送ってもらった」と供述していますが、

麻薬で痛み治療 日米の違い

中高年の女性には当たり前の症状に対して、この薬を使ってきたわけです。しかし、日本では、がんによる痛みにしカオキシコドンは使うことが許されません。

今回問題になったオキシコドンは、オピオイド鎮痛薬とよばれる医療用麻薬に分類されています。医療用麻薬とは、医療用のみ使用が許可されている麻薬です。オピオイド鎮痛薬は、脳や脊髄などの中枢神経にあるオピオイド受容体に結合して、痛みを和らげます。

医療用麻薬の管理が非常に厳格なわが国では、オキシコドンを処方する医師は都道府県単位で登録しておかねばなりません。使用量を逐一記録・管理することも義務付けられています。医療用麻薬を処方できる医師がない医療機関では処方されることはありません。従って、誰もが簡単に入手できる薬ではありません。

一方、米国でも、オキシコドンは医師の処方箋が必要ですが、歯痛や生理痛などの急性の痛み、腰痛などの慢性の痛みに広く使われています。

2012年の1人当たりの1年間のオキシコドンの平均消費量は米国が243・8ミリグラムとトップです。日本は3・6ミリグラムと米国の1・4%で、世界平均13・5ミリグラムの3割以下です。

痛みを取ることは医療の基本です。日本における医療用麻薬のあり方を再検討する時期かもしれません。

（東京大学病院准教授）



イラスト・中村 久美